

令和 8 年(2026 年)6 月

PIARC 日本国内委員会からのお知らせ

【PIARC 団体会員および個人会員の皆さまへ】

日頃より PIARC 活動へのご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。ROUTES/ROADS 最新号とともに、PIARC 技術レポート等ご案内いたします。最新号は、2026 年 3 月 10 日から 13 日にかけてフランス・シャンベリーで開催されたシャンベリー冬期大会 PIARC 賞受賞論文の特集です。特に優れた論文に贈られる PIARC 賞ですが、今大会では 6 部門が設置され、その 1 つの「冬期サービス」部門において首都高速道路株式会社社の「伝統的な日本の製紙技術で作られた紙（和紙）を利用したロードヒーティング」に関する論文が受賞しました。今号には 6 部門の受賞論文の概要が記載されています。ぜひご一読ください。

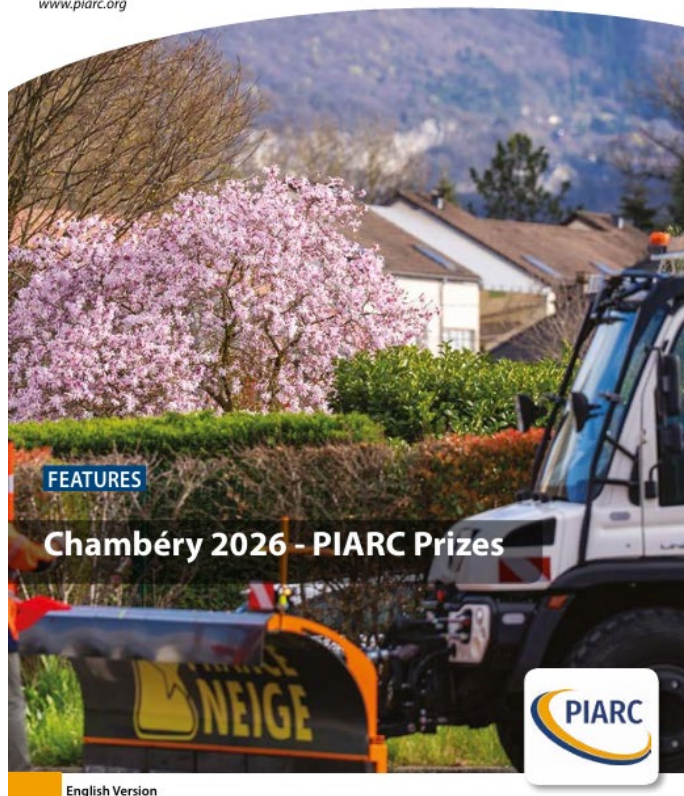
1. ROUTES/ROADS 最新号（408 号）の紹介

【特集】 シャンベリー冬期大会 PIARC 賞受賞論文

ROUTES/ROADS

PIARC - World Road Association
www.piarc.org

n°408 - 1st quarter 2026



■特集(Features)

★シャンベリー冬期大会 PIARC 賞受賞論文★

- ✓ 気候変動へのレジリエンス強化（カナダ） - 21 頁
- ✓ 自動車相乗り（カープール）普及に向けた戦略（フランス） - 27 頁
- ✓ 伝統的な日本の製紙技術で作られた紙（和紙）を利用したロードヒーティング（日本） - 33 頁
- ✓ 冬期道路インテリジェンスプロジェクト（フィンランド） - 39 頁
- ✓ 気候変動へのビクトリア州インフラの適応（豪州） - 43 頁
- ✓ 地方道路維持管理の経済性に関する評価マトリックスの開発と導入（インド） - 48 頁

【バンクーバー世界大会 論文概要募集中】



2027 年 10 月 4 日～8 日にかけてカナダ・バンクーバーで開催される第 28 回世界道路会議（バンクーバー世界大会）に向けた論文概要募集が始まりました。

57 のトピックスが対象となっており、関心のある分野に応募をいただきやすい非常に幅広いテーマ設定です。

論文概要の提出締切は 8 月 31 日です。

詳細の大会情報は日本道路協会ウェブサイトにてご案内しておりますのでぜひご覧ください。

日本道路協会ウェブサイト：

<https://www.road.or.jp/international/piarc.html#kongo>

プラハ世界大会、シャンベリー冬期大会に続き、バンクーバー世界大会でも多くの皆さまに論文を投稿いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 今号の主な記事の紹介

■最新情報(What's new?)

- ✓ 路床盛土への赤色砂岩風化粘性土の活用（中国） - 4 頁
- ✓ 現在のアセットマネジメントの活用（米国） - 7 頁
- ✓ 道路投資における優先順位（英国） - 9 頁
- ✓ 地下空洞に伴うリスクの管理（チュニジア） -14 頁

【テクニカルアドバイザーの交代について】

PIARC パリ事務局に派遣しているテクニカルアドバイザーについては、2026 年 6 月末をもって、広地（原籍：NEXCO 東日本）の任期が終了し、後任として広瀬（原籍：NEXCO 中日本）が着任いたします。2024 年 3 月の着任以来、皆さまには大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

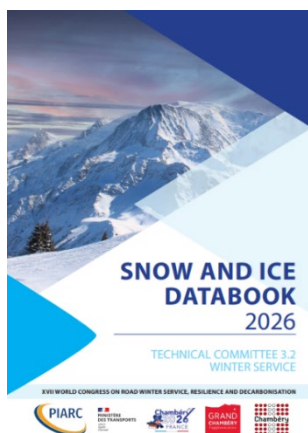
3. PIARC パリ事務局からのお知らせ

テクニカルレポートの紹介とともに、PIARC パリ事務局より最新のトピックスを紹介いたします。

～テクニカルレポートのご紹介～

①冬期道路維持管理（雪氷） データブック

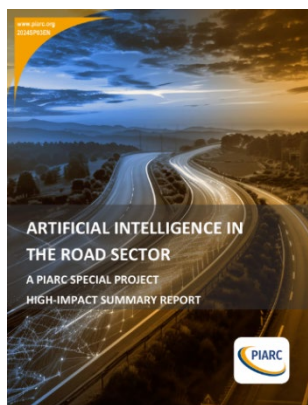
本レポートは、シャンペリー大会に合わせて発行された、世界 23 カ国における冬期の道路管理・維持管理（雪氷対策）の実例がまとめられたもので、4 年毎に更新されています。特に本号は、AI を活用した維持管理意思決定システム（MDSS）や環境に配慮した散



布剤、デジタル化など、コストや環境負荷の低減につながる取組が世界的に進んでいることがうかがえます。気候変動が進む中、各国の実践例をまとめて確認することができますので、日本の雪氷管理やデジタル技術の高度化を考えるうえでも参考としてご覧いただければ幸いです。〈レポート掲載ページは[こちら](#)〉

②道路分野における人工知能

本レポートでは、道路分野における人工知能（AI）導入の現状と 2030 年に向けた展望等がまとめられています。AI は、道路安全の向上やインフラ点検、交通運用の効率化に幅広く活用される可能性があり、今後どのような形で技術活用が進んでいくのかを考えるうえで、各国の課題を含めて興味深い内容と思われます。

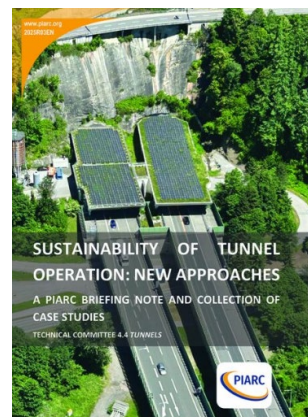


例えば高所得国では整備されたインフラを背景に導入が進む一方、低・中所得国では AI に関する資金や技術、人材の不足といった課題も指摘されています。こうした国際的な動向と課題をあわせて俯瞰できる点は、今後、我が国で AI を活用した道路維持管理を検討していく際にも参考としてご覧いただければ幸いです。

〈レポート掲載ページはこちら：[その 1](#)、[その 2](#)〉

③持続可能なトンネル運営

本レポートでは、道路トンネルの持続可能な設計・運用に関する世界各国の知見がまとめられています。安全性や設備強化に伴い消費電力や運用コストの増加する中、照明や換気の最適化、LED 転換、再生可能エネルギー導入などによる環境負荷とコストの低減手法が日本を含む 25 件の事例と共に示されています。各国の取組が今後のトンネル維持管理の改善を考える際の参考となれば幸いです。〈レポート掲載ページは[こちら](#)〉



～PIARC パリ事務局便り～

テーマ：パリ市 15 分都市構想

パリで暮らしていると、「15 分都市」という考え方を身近に感じます。生活に必要な機能を徒歩 15 分、自転車 5 分圏内に収めようとする都市モデルで、イダルゴ前市長が推進してきました。私が赴任した 2023 年はすでに構想が進んでおり、学校の前が歩行者中心の空間になっていることや、住宅街であっても小規模な商店やカフェが近所にあり、日常の用事がある程度済ませられることに、その輪郭を見る気がします。とくに印象的なのは、学校前の道路が「学校への道」として車両通行止めとなり、植栽もあって落ち着いた空間になっている点です（写真）。通学時の安全確保に加え、道路空間が子どもや保護者、近隣の人が安心して使える生活空間へ変わっているように見えます。道路を単なる通過空間ではなく、地域の暮らしを支える場として使い直しているところに、パリらしさを感じます。もちろん、周辺部との違いや自動車利用との調整、通行止めによる沿道の商業への影響など課題もあります。それでも、街が少し静かになり、歩きやすく、子供にやさしくなっているという変化は、生活者としては確かな意義を感じます。パリの 15 分都市構想は、その変化を日常の風景として見せてくれる取組だと思います。



文責：広地豪

PIARC 活動に関するご意見、ご質問等ございましたら、以下までご連絡いただければ幸いです。

PIARC 日本国内委員会事務局 安藤：ando@road.or.jp

PIARC 本部事務局 広地：go.hirochi@piarc.org